

魅力だより

- ◆最上教育事務所「魅力ある学校づくり調査研究事業」通信第1号
- ◆令和2年5月18日（月）
- ◆最上教育事務所 指導課

「魅力ある学校づくり調査研究事業」とは？

最上教育事務所では、平成29年度から国立教育政策研究所の委嘱を受け、「魅力ある学校づくり調査研究事業」に取り組んでいます。今年度は2サイクル目の最終年度となり、昨年度に引き続き舟形町立舟形中学校区をモデル校区としながら、管内各市町村教育委員会及び各小・中学校等の協力をいただき全域で展開します。以下に本研究事業の概要を示します。

【目的】

魅力ある学校づくりに向けて、各学校が創意工夫した取組を教職員の共通理解のもと実践することで、近年増加傾向にある不登校児童生徒の未然防止を図ること。

【事業内容】

今年度の重点：小中連携による中学校1年生時における新規数抑制

○中学校等（未然防止）

不登校の未然防止に向け、「子どもの声調査」を実施し、そこで見られた課題を解決するために、各学校において創意工夫した取組を実施する。その際に、「チーム学校プラン」を作成し、学年部会や校内研修会等を開いて教職員間で検討するなど共通理解を図る。各学期末には、再度、「子どもの声調査」を実施し、生徒の意識の変容から取組内容の見直しを図る。


○小学校等（未然防止）

中学校と連携しながら、各学校において創意工夫した取組を実施する。また、「子どもの声調査」（原則5・6年生）を実施し、中学校にデータを提供する。「チーム学校プラン」を作成して取り組むことも可能である。

○市町村教育委員会（早期発見・早期対応、適切な支援）


中学校等の「チーム学校プラン」の作成や取組状況等について、指導・助言を行う。また、毎月の不登校・不登校傾向調査や個別状況調査から、不登校の兆しの見えた児童生徒について学校との連携を密にしながら、早期発見・早期対応に努める。

「リセット」ではなく「リピート」を！「中学0年生」ではなく「小学7年生」の取組を！



令和2年度「ワーキンググループ」の予定

★第1回：	7月28日（火）	講師：国立教育政策研究所	小野憲 総括研究官
★第2回：	10月23日（金）	講師：大阪成蹊短期大学	中野澄 教授
★第3回：	1月14日（木）	講師：国立教育政策研究所	小野憲 総括研究官



昨年度も大好評だったワーキンググループへの参加を通して、「魅力ある学校づくり」について皆さんと一緒に考えてみませんか？

中学校入学時の激変は「小学校時代に培った絆」で乗り越えさせよう！